

岡山県岡山市立福浜小学校 谷口 俊郎

1 はじめに

2 岡山市立福浜小学校の取り組み

(1) 子ども一人ひとりが基礎・基本を身に付ける「学びの道筋」(課題別)

① 1年次の取り組み

ア 授業の指導体制の改善と指導方法の工夫

a 授業の指導体制の改善

b 指導方法の工夫

イ 課題別カリキュラムづくり(算数科を中心)

a 個に応じた「学びの道筋」

b 自己チェック場面

② 2年次の取り組み

ア 授業における「学びの道筋」の確立(算数科)

a 実態調査等

b 「学びの道筋」の確立のために大切なこと

- ・ 授業の充実 学びの楽しさを感じる子ども
- ・ 評価の充実 学びを自己決定できる子ども
- ・ 学び方の充実 自ら学び続ける子ども

3 課題別授業について

(1) 課題別授業とは(習熟度別を含む)

(2) どんな単元を課題別授業で取り組むのか。

(3) どのようにして取り組むのか。

(4) 具体的な展開例

4 課題別授業に対する反応

(1) 子どもの反応について

(2) 保護者の反応について

(3) 課題別授業への配慮

5 推進上の課題

子ども一人ひとりが基礎・基本を身に付ける『学びの道筋』(課題別) 岡山市立福浜小学校

1 主題設定の理由

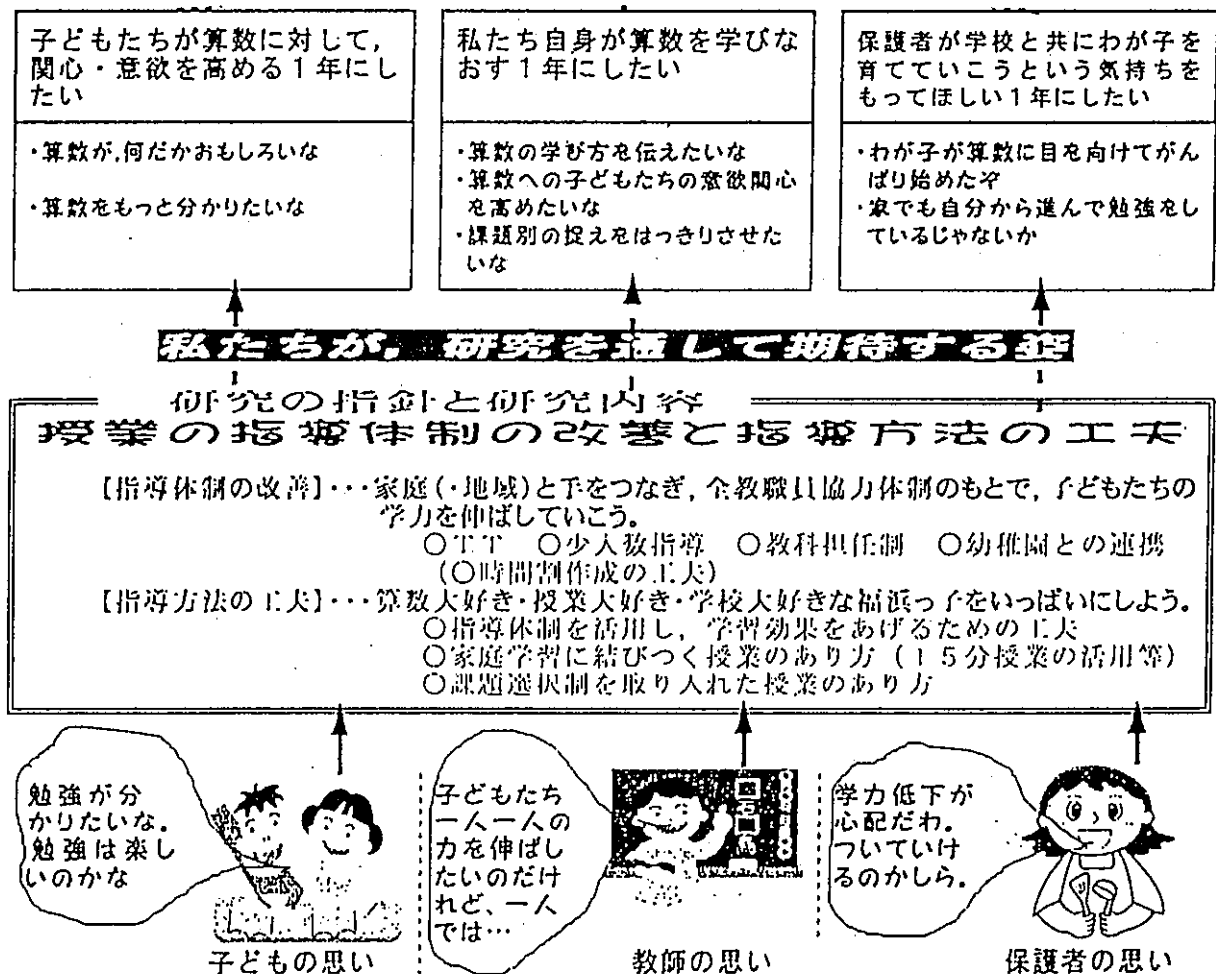
本年度から、新指導要領による教育活動が本格的に開始される。そのねらいである『基礎・基本を確実に身に付け、それを基に、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力や、豊かな人間性、健康と体力などの「生きる力」を育成すること』の中で、重要な位置をしめている「基礎・基本」について、福浜小学校でも見直しが迫られている。子どもの実態を見ていくと、子ども一人一人には個性があり、基礎・基本の獲得の仕方も様々である。

そこで、教科の中でも、学年が進むにつれて理解力の幅が大きくなる、得意・不得意の意識の違いがはっきりしている、系統性がはっきりしている、児童にも家庭にも今までの学び方について見直しやすいといった観点から算数科を選び、基礎・基本についての研究をしていきたいと考えた。

子どもの学びを一年一年の細切れでなく、全学年を算数科で縦軸を通して3年間取り組む中で、算数科の基礎・基本を身に付けさせると共に、『自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力』といった学び方を身に付けさせていきたい。

そのためには、指導内容に応じた算数科で大切にしたい基礎・基本を明らかにした後、子どもの実態により各学年で最も基礎・基本を重視したものからより発展的なものまで教材開発をしていき、少人数指導・TT(T1-T2、課題別学年TT)などの指導体制を工夫した『学びの道筋』を構築していくことが大切であると考えた。

2 めざす子ども・教師・家庭の姿



平成15年度からは、子どもと家庭が、『自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し』ながら、課題別コースを選択して、よりよい学びをしていくことができるようにしていきたい。

大人になった時に自分で学べる人になってほしいという子どもたちの将来を見通した願いを持って取り組みたい。

3 研究の概要

(1) 研究の構想

基礎・基本を身に付けるストラテジー

研究仮説1

子どもが自らの興味・関心や今までに身に付けた力を発揮しながら、算数科の基礎・基本を身に付けるには、個に応じた『学びの道筋』がある。

(研究方法)

新しい単元に必要な既習事項を確認すれば、新たな単元の学習内容が身に付きやすいのではないかと考えた。また、新しい単元を学習した後に、発展的な課題に取り組めば算数の楽しさを味わったり数学的な考えを深めていったりすることができるのではないかと考えた。そういう点から、子どもの興味・関心を高め、今までに身に付けた力を確認しながら学習を進めていく『学びの道筋』を構築していくことが大切であると考えた。そこで、算数科の目標から以下に示すような学びの道筋を想定し、学習集団を生活集団と同一集団にして一斉に取り組む課題と学習集団を学年TTや少人数など新たな集団を構成して取り組む課題の組み合わせを考え、算数科の基礎・基本が身に付きやすい課題別カリキュラム作りをしていく。

研究仮説2

ふさわしいタイミングに、自分にとって必要な課題を自らの判断で選択し、繰り返し取り組むと、課題解決する学び方を身に付けやすい。

(研究方法)

与えられた課題より自分で選んだ課題に取り組む方が、学習意欲が高まる。また、今までに身に付けた力を確認した上で自分に必要な課題を選ぶことを繰り返していくと、主体的に課題を選択する力や課題に関わり続ける力などが身に付いていくと考えられる。

そこで、各学年の各単元について算数科の基礎・基本が身に付きやすいタイミングを探り、今までに身に付けた力を確認する時間を設定した後、それをもとに自分が必要とする課題を選択し、解決していく授業づくりをしていく。

次のように『学びの道筋』A、Bを想定した。

A 基本的な知識と技能を身に付けるための『学びの道筋』（課題別）

課題の内容・・・意味理解を深める課題

（身に付けたい知識と技能を定着するための課題）

A.1	一 斉		課 題 別	
	新しい単元で必要となる 既習事項の確認練習		新しい単元	
	3 年生	「大きな数」	(学年 T T)	
	4 年生	「わり算 (1)」	(少人数指導)	
	4 年生	「わり算 (2)」	(少人数指導)	
	6 年生	「計算の見積もり」		
	6 年生	「変わり方を調べて」		

A.2	二 斉		課 題 別	
	新しい単元		発展課題 または 基礎・基本の課題	
	3 年生	「あまりのあるわり算」	(学年 T T)	
	4 年生	「大きな数」	(少人数)	
	4 年生	「式と計算」	(少人数)	
	5 年生	「小数と整数」		
	5 年生	「小数のかけ算とわり算」		
	5 年生	「割合」		
	6 年生	「分数のかけ算」		
	6 年生	「分数のわり算」		

A.3	課題別		一 斉	
	新しい単元で必要となる 既習事項の確認練習		新しい単元	
	5 年生	「小数のかけ算とわり算 (2)」		
	6 年生	「分数のたし算・ひき算」		

A.4	一 斉		課題別		一 斉	
	新しい単元 1		力を付け直して		新しい単元 2	
	2 年生	「かけ算 (1)」	(T T)			
	2 年生	「かけ算 (2)」	(T T)			
	6 年生	「比例」				

A.5	課題別		一 斉		課題別	
	新しい単元で必要となる 既習事項の確認練習		新しい単元		発展課題 または 基礎・基本の課題	
	5 年生	「小数のかけ算とわり算 (2)」	(T T)			
	6 年生	「割合を使って」				

B 日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考えるための『学びの道筋』(課題別)

課題の内容・・・感覚を豊にする課題

(量感を養う、見当付けをする、単位を実感するなどの課題)

創造的な考え方を養う課題

(帰納的、演繹的、類推的な考えが出てくる課題)

B 1	一斉	課題別
	日常から	新しい單元

6年生 「算数と生活」

B2	一斉	課題別
	新しい單元	日常へ 創造的な思考へ

4年生「円と球」 (少人数)
 4年生「小数」 (少人数)
 4年生「角の大きさ」 (少人数)
 4年生「調べ方と整理のしかた」 (少人数)
 4年生「分数」 (少人数)
 5年生「計算の見積もり」 (T T)
 5年生「面積」 (T T)
 6年生「平均とその利用」 (T T)
 6年生「整数」 (T T)
 6年生「単位量あたり」 (T T)

B 3	課題別	一斉
	日常から	新しい單元

6年生 「比とその利用」

B 4	課題別	一斉	課題別
	日常から	新しい單元	さらに日常へ 創造的な思考へ

4年生 「折れ線グラフ」 (少人数)
 4年生 「面積」 (少人数)
 6年生 「立体」 (学年T T)
 6年生 「体積」

(2) 実践にあたってのキーワード

自己評価と課題

(例) 『学びの道筋』A-1の場合

子どもの活動と期待される変容

自己チェックテストにより今身に付けている力を自己評価する。その評価を基にコースを自分で決定する

関心・意欲・態度：自分の選んだ課題なのでやる気になり、自己評価により自己決定をする態度が身に付く。
 考え：自分に合った課題なので、自分の思考方法で課題解決していくことができる。
 技能：自分のペースで取り組むので習熟を図ることができる。
 知識：理解の進度に合わせて取り組むので、知識の獲得ができる。

子ども自身による評価活動

学習の振り返りカードによる自己評価

毎時間の学習カードによる自己評価

一斉指導

課題別コース a

課題別コース b

教師による評価活動

毎時間の評価規準に照らした授業・ノート・テストなど
 毎時評に照らした評価

毎時間の評価規準に照らし合わせた評価
 ・授業
 ・ノート
 ・テスト など

教師の支援

自己チェックテストの作成

個に応じた課題づくり

・毎時間の評価基準の作成
 ・学習振り返りカードの作成
 ・毎時間の評価を次時の学習に生かす

具体その1 《自己チェックテスト前評価》の実施

自己チェックテストで子ども自身が正しく自己評価するために、毎時間の授業での子ども自身の自己評価の積み重ねが大切である。そして、ねらいを達成できなかった時に、モデルステップで力を付け直していくことが大きな力となると考えられる。また、教師も子どもの達成度を十分に把握しておくことで、自己チェックテスト時においての子どもの自己評価を強力にバックアップするものとなる。

(児童による自己評価がもたらす効果)

- ①自己についての気づきにより自己理解が深まる。
- ②自己抗力感(行動をどの程度うまく遂行することが可能かどうかを予測することである)が高まる。
- ③自己抗力感と相まってやる気が出てくる。
- ④相互理解が深まる。

ポイント 1	毎時間の評価基準の作成(評価のポイントを明確にする)
ポイント 2	学習振り返りカードの作成
ポイント 3	毎時間の評価の生かし方(教師・子ども)

① ポイント 1 毎時間の評価基準の作成(評価のポイントを明確にする)

毎時間の評価基準を4観点の中から絞って設定し、TTでも小人数指導でも評価しやすくする。多くても1時間では2観点までに絞る。

② ポイント 2 学習振り返りカードの作成

子ども自身も今日の学習で何がわかり何ができなかったかをはっきり意識することができるよう項目を立てる。つまり、教師が、その時間に狙っている観点について振り返らせるようにする。また、学習感想の欄を設け、自分自身の取り組みについて・学習中の友だちの考えについてなどを記述できるようにする。

- ・学習振り返り学習カードの内容
 - ・関心意欲を問う設問
 - ・その時間のねらいの達成の有無を問う設問
 - ・学習感想を自由に書く欄
- (自分の学習態度・考え、友だちの考えのよさ、先生の気に入った指導方法など)

(学習カード例)

単元名【わり算(2)】		4年	氏名()
	今日の学習は分かったかな (◎ ○ △)	楽しかったこと・困ったこと・友だちの素晴らしいことなどを書きましょう。	
1	何十でわるわり算ができましたか。		
3	96÷32の計算の仕方を自分で考えることができましたか。		

④ ポイント 3 毎時間の評価の生かし方の工夫

毎時間の子どもの自己評価を必ず次時からの学習に生かしていく必要がある。つまり、ねらいを達成できたかを自己評価させることで、教師の評価とのずれを明らかにしたり、その時間に不十分な点を放課後などを使って補充して次時の学習がスムーズに展開していくことができるようにしたり、子どもにとって効き目のあった指導法に教師が気付いたりして、さらに基礎・基本の定着を図りやすくしていく。

具体その2 《自己チェックテスト》の実施

『自ら学び、自ら考え、主体的に判断する』態度や能力を身に付けさせるために 課題別コースに入る前には必ず、《自己チェックテスト》を実施していく。その《自己チェックテスト》の結果を基に、自分で、課題コースを選択させていく。

子どもが、ふさわしい判断できない時には、教師がアドバイスをを行う。しかし、決定するのはあくまでも子ども自身である。(学年や内容によっては、お家の方と子どもの相談により決定することもよい。)

自己評価を基に課題別コースを決定するという能動的な活動を繰り返していくうちに、算数に対する関心・意欲・態度が大きく伸びていくと考えられる。そのため、徐々に自分にふさわしい課題別コースを選択する能力も高まっていくと考えられる。

ポイント 1	《自己チェックテスト》の内容の吟味
ポイント 2	《自己チェックテスト》を行うタイミング
ポイント 3	《自己チェックテスト》の活用のさせ方

④ ポイント 1 《自己チェックテスト》の内容の吟味

課題別コースに取り組むために必要な既習事項を選択すると共に、短時間で自己評価できる量の設問を吟味する。

④ ポイント 2 《自己チェックテスト》を行うタイミング

課題別コースが必要な学習内容を吟味し、自分の力を知って課題別コースに進みやすくするために、前時に行う。

④ ポイント 3 《自己チェックテスト》の活用のさせ方

課題別コースのガイダンスを行うと共に、自己チェックテストの結果より自分の進むべき課題別コースについての得点の目安を与え、自己選択しやすくする。

具体その3 課題の工夫

課題別コースに分かれてから子供たちが会合う課題を工夫することが必要である。各課題別コースが同じような課題を準備したのでは、課題別コースに分かれた意味がないのである。同じ課題別コースの中での系統性及び違う課題別コースとの違いをチェックしていく必要がある。

ポイント 1	課題の内容の工夫
ポイント 2	既習事項を明らかにした取り組み

④ ポイント 1 課題の内容の工夫

子どもが感心意欲を持って取り組むことが出来る課題を設定する。

④ ポイント 2 既習事項を明らかにした取り組み

子ども自身に既習事項を意識させることで、今までに身に付けた力を発揮して、課題解決をしやすくする。

グッドジョブ

2003 岡山市立福浜小学校

2年目の研究主題

身に付けさせたい学力（基礎・基本）に着目した
授業における『学びの道筋』（課題別）の確立

1 主題設定の理由

昨年度は研究主題を「身に付けさせたい学力（基礎・基本）に着目した課題別カリキュラム作り」として、それぞれの学年で、課題別の取り組みを行った。『学びの道筋』を想定することで、単元の関連や既習事項を意識した指導を進めることができ、個に応じた指導ができるようにポイントを絞って指導体制が組みやすくなった。

自己チェックテストを生かした課題別授業により、子どもの意欲の高まりや主体的な取り組みによる技能の修得や知識の獲得がしやすいことが分かった。その結果、子ども達の「算数を好き」とする割合が5.3%（1学期）から6.8%（3学期）に増えた。また、課題別に取り組んだ単元については、子どもの理解が進んでいることも、単元終了後のテストの結果から分かってきた。しかし、1年間の取り組みを終えて学力検査を実施したところ、おおむね平均値は全国に到達しているも、個人差が大きく、全国達成率と比較して下回っているものが、全学年の「数と計算」・3年生と4年生の「量と測定」・5年生の「図形」などの領域であることが分かってきた。

また、教育課程実施状況調査の教科別報告書より次の点があげられていた。

- ・ 計算の意味を実際場面と結びつけたり、面積の公式を児童自らが工夫して作っていく学習などを充実させる。計算の技能を定着させるための指導を一人一人の学習状況に応じて進める。
- ・ 数量や図形についての作業的・体験的な活動等を取り入れる。児童が様々な考え方を試みたり、話し合ったりする中で、日常生活で数を用いることの有用性など数理的な処理のよさを実感できるようにする。

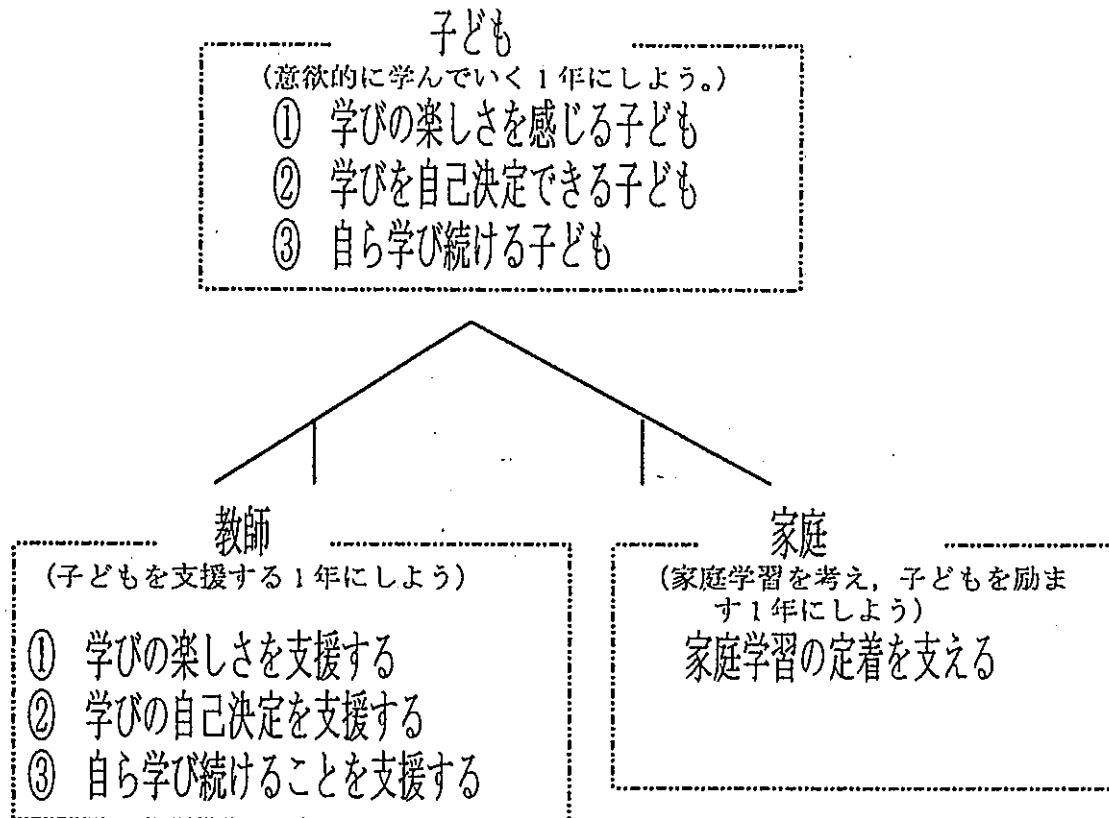
さらに、岡山県教育委員会の小学校5年生の学習到達度についての調査では次の点があげられている。

- ・ 基礎学力はおおむね身に付いているが、読解力や応用力などに課題も残る。
- ・ 各教科の結果分析の中で算数では「考えを図や式で表現する力」が弱点と位置づけた。
- ・ 学校外での学習時間が「30分以内」の児童と「ほとんどしない」児童との平均点の差は比較的大きく、家庭学習の効果を伺わせるデータとなっている。

そこで、本年度は、児童の実態・算数の今日的な課題を考慮し、6年間の子どもの学びを意識しながら研究単元だけではなく昨年度作成した『課題別カリキュラム』を活用して、子ども自身が学びの楽しさを味わいながら学び続けることができる『学びの道筋』を確立していくことが必要であると考えた。

2 2年度『学びの道筋』の確立の中で目指す子ども・教師・家庭の姿像

子どもが学びの主体者になり、生涯学びの主体者であり続けるために『学びの道筋』の確立の中で目指す子どもの姿・支援する教師の姿・支える家庭の姿を次のように想定していった。



3 2年度の研究の概要

(1) 『学びの道筋』の確立のために大切なこと

『学びの道筋』を確立していくためには、目指す子どもを意識した教師の支援を明らかにしていくことが大切であると考えた。

① 授業の充実・・・ 学びの楽しさを感じる子ども

子どもが、学びの楽しさを感じるためには、自分から課題に関わっていくという興味・関心・意欲が大切な要素になってくる。そのためには、子どもが出会う課題が自分にとってふさわしいもの・興味を持つことができるものなどの存在でなければならない。また、自分の力で課題を解決できたという積み重ねが自信と意欲につながっていくので、課題に出会った後も作業的・体験的な活動を意図的に取り入れて自らの力で考えや知識などを獲得していくことができるような授業展開を考えていかなければならない。そこで、次のような、教師の支援を考えた。

教師の支援①	課題の工夫
教師の支援②	算数的活動の工夫
教師の支援③	『学びの道筋B』の開発
教師の支援④	ショート6の取り組み

② 評価の充実・・・ 学びを自己決定できる子ども

子どもが、学びを自己決定できるようになるためには、自分の今持っている力が分かり、それに裏うちされて判断していくことが正しい課題に出会い、新たな力を獲得したり、学びの楽しさを感じることができるということに気付くことである。そのためには、教師と連携した評価のあり方を考えていく必要があると考えた。

- | | |
|--------|---|
| 教師の支援⑤ | 自己チェックテストの内容とその使い方 |
| 教師の支援⑥ | 毎時間の子ども自身の自己評価のあり方
(評価カードの工夫・生かし方) |
| 教師の支援⑦ | 子どもの自己評価を裏付ける毎時間の教師評価のあり方
(評価場面・評価の残し方・生かし方) |

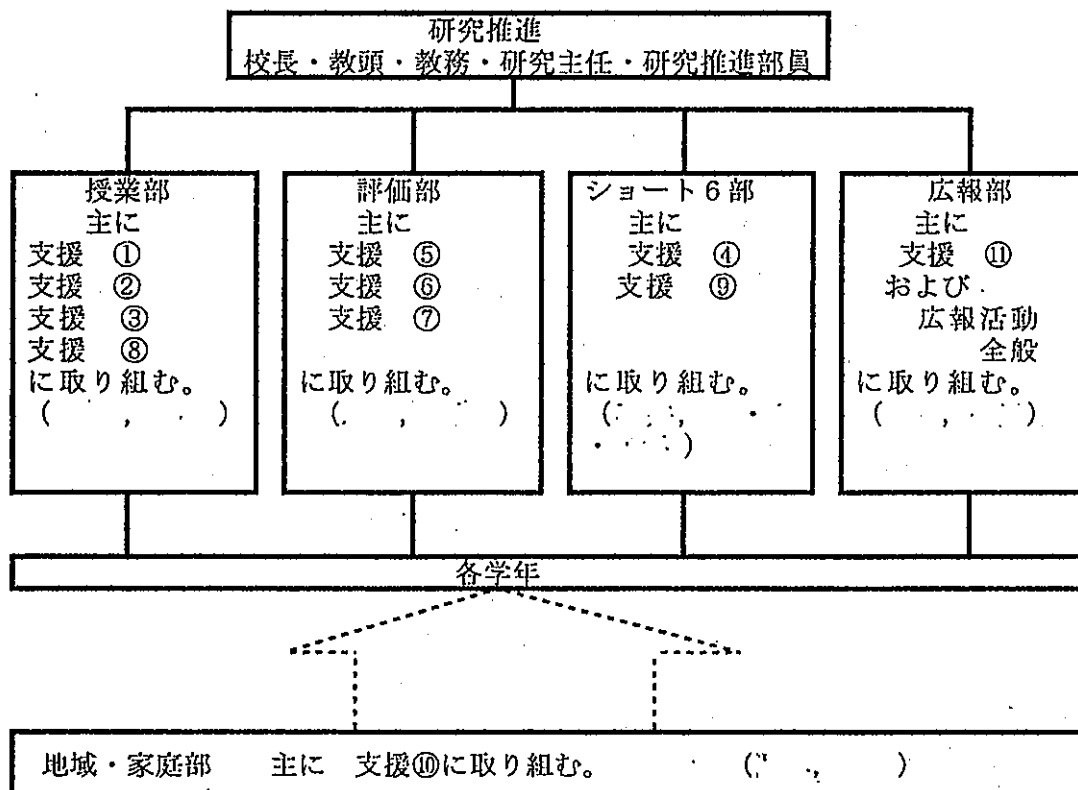
③ 学び方の充実・・・ 自ら学び続ける子ども

子どもが、学び続けるためには、出会う課題だけではなく、自分で探し出す課題も大切である。自分に必要な課題を整理して、計画的に取り組んでいくという学び方を身につけていくことが大切であると考えている。そのためには、家庭学習のあり方・学校と家庭との連携を考えていく必要であると考えた。

- | | |
|----------|---------------|
| 教師の支援⑧ | 授業展開の工夫 |
| 教師の支援⑨ | ショート6の取り組み |
| 教師の支援⑩ | 家庭学習の定着への取り組み |
| 教師の取り組み⑪ | 家庭への啓発 |

4 研究組織

以上の支援を進めていくための研究組織を次のような考えた。



3 課題別授業について

(1) 課題別授業とは(習熟度別を含む)

①「なぜ、習熟度別でなく課題別授業なのか」

ア 与えられた課題より自分で選んだ課題に取り組む方が、学習意欲が高まる。

イ 自己チェック等で今までに身につけた力を確認した上で自分に必要に課題を選ぶことを繰り返していくと、主体的に課題を選択していく力や課題にかかわる力などが身についてくる。

ウ 「数と計算」領域は、到達度差が自己チェックできわかりやすいので習熟度別が可能。

エ すべてを習熟度別授業で取り組むことになると、等質集団になり問題解決の仕方や考え方の違いを生かしての思考力が育ちににくい。

オ 子ども、保護者、教師ともに習熟度別で学習することの理解が得られていない。

(2) どんな単元を課題別授業で取り組むのか。

① 基本的な知識と技能を身に付ける単元(意味理解を深める課題)

【身につけさせたい知識と技能を定着するための課題】

② 日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考えるための単元(感覚を豊かに、創造的な考え方を養う課題) 【帰納的、演繹的、類推的な考えが出てくる課題】

(3) どのようにして取り組むのか。

	算数の時間	ショート6(3・4・5・6年)
① 学級単位	同一教室で1つの課題によるTT 同一教室で2つに分ける(T・T) 別々の教室(少人数指導)	担任のみ 担任＋フリー(曜日限定)
② 学年単位	担任団 担任団＋フリー	担任団＋フリー 高学年担任団＋低学年団(曜日限定)

<参考> 各学年の推進体制について

	算数の時間	ショート6
1年	担任 教育支援員	
2年	担任 TT(1h×5)	
3年	担任 TT(1h×4)	担任 TT(1h×1)
4年	担任 少人数指導	担任 少人数指導(1h×5)
5年	担任 TT(1h×2)	担任 TT(1年より1日2人)
6年	担任 TT(2h×4, 1h×2)	担任 TT(2年より1日2人)

課題別少人数

『学びの道筋』A-2
平成15年2月21日(金曜日) 第5校時 場所: 4D, 第2多目的
授業者 後藤 緑, 田中 則道

1. 単元 分数

2. 単元の目標

- ・ 是したの部分を表すのに分数を用いることに興味を持ち、進んで学習しようとする。
- ・ 単位の分数のいくつ分の考え方をもとに分数の大きさの表し方を考えることができる。
- ・ 分数の大小の判断や仮分数や帯分数に表す事ができる。
- ・ 分数の表記、数としての分数、連続量としての分数、帯分数や仮分数などの意味が理解できる。

3. 指導計画 (全10時間)

第1次	第1時	小数では表しにくい大きさを表す数としての分数への
	第2時	分数による1mの何分の1という見方とその表し方
第2次	第3時	真分数の意義と単位分数のいくつ分という見方
	第1時	1より大きい分数の意義と数直線上の分数
	第2時	分数の系列と大小、数直線上の分数
	第3時	分数の分類と真分数、仮分数の定義
	第4時	帯分数の定義と関係
	第5時	練習、自己チェックテスト

一 奇

分数パーティーコース		分数ゲームコース	
第1時 分数パーティー大会Ⅰ ・出席者の注文に料理を分ける 真分数		第1時 分数ゲーム大会Ⅰ ・単位分数のいくつ分ゲーム ・どっちの分数が大きいでしょう	
第2時 分数パーティー大会Ⅱ ・出席者の注文に料理を分ける 仮分数・帯分数 (本時)		第2時 分数ゲーム大会Ⅱ ・数直線分数指差しゲーム ・どっちの分数が小さいでしょう (本時)	

課題別

4. 単元設定の理由

- (1) 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。
- (2) 自己チェックテストの結果より、本学級の児童は分数の内容理解は以下のよ
うであった。

問題数 (問)	20	19	18	17	16	13	11	10	9	7	6	4	3	1
正答等者 数(人)	7	3	2	1	2	1	3	1	2	2	4	2	1	1
選んだコース	「分数ゲームコース」										「分数パーティーコース」			

自己チェックテストの結果より、「分数パーティーコース」を選んだ児童
は12名、「分数ゲームコース」を選んだ児童は、20名である。授業中、自
分の考えをもって解決したり活動したり意欲的に取り組む児童が多いが、や
時間のかかる児童も見られる。

- (3) 本に「一ム」は、単位分数のいくつ分という見方とその表し方、真分数の意義と単位分数のいくつ分という見方、1より大きい分数の意義と数直線上の分数、分数の系列と大小、数直線上の分数、仮分数と帯分数、帯分数と仮分数の関係、帯分数の定義と関係、帯分数の表記、数としての分数、連続量としての分数、帯分数や仮分数などの意味が理解できる。

5. 課題別
(1) 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- (2) 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- (2) 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

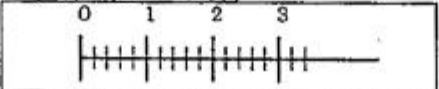
- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

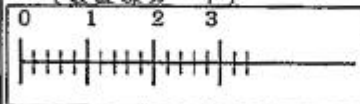
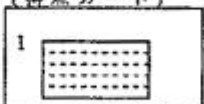
- ・ 本単元は、小数ではうまく表す事ができない端数部分の大きさ・等分して
できる部分の大きさ・単位分数のいくつ分で表す分数について理解する単元
である。そして、第5学年での分数のたし算・ひき算、第6学年での分数
のかけ算・わり算につながる単元である。

6. 本時案 (課題別第2時)

分数パーティーコース (少人数担当)

目標	・分数に関心をもち、楽しみながら分数を扱おうとする。 ・分数を数直線の上に表したり、仮分数と帯分数との関係がわかる
準備物	コップ、ボトル、水、料理ビース(チョコレート、カステラ)、数直線カード
学習活動	指導上の留意点 1 分数パーティー大会をすることを伝え、めあてを確認する。 めあて 仮分数・帯分数の注文に答えよう。 2 分数パーティー大会を始める。 それぞれの料理の注文を次の手順で行う。 (手順) ①客は、数直線カードに注文の分数を書いて渡す。 ②店の人(先生)は注文にあった料理を準備する。 ③説明の言葉を添えて準備された料理を選ぶ。 ④客は、カードに書かれた分数と料理が合っているかを確認し、合っている場合は「ありがとう。」と言う。間違っている場合は、「結構です。」と答え、料理を待つ。 ・お店のコーナーに十分な料理ビースを準備しておく。 ・注文用に、2分の1、3分の1、4分の1、5分の1、8分の1を単位分数とした数直線カードを準備する。 (数直線カード例)  必要な児童には説明の言葉カードを渡せるようにしておく。 (1) 仮分数 《店の人の言葉》 「ご注文の△分の□(仮分数)は、△分1が□個分です。」 (2) 帯分数 《店の人の言葉》 「ご注文の○と△分の□(帯分数)は、○がこちらで△分の□がこちらです。」 (3) 仮分数 ↓ 帯分数 《店の人の言葉》 「ご注文の△分の□(仮分数)は、○と△分の○になりますので、○がこちらで△分の○がこちらです。」 ・仮分数と帯分数の関係が分かりにくい児童には、ビースを並べたり数直線カードを使ったりしながら整数部分に気付きやすくする。 (4) 帯分数 ↓ 仮分数 《店の人の言葉》 「ご注文の○と△分の□(帯分数)は、△分の1が□個分になります。」 ・帯分数と仮分数の関係が分かりにくい児童には、数直線カードを使い単位分数のいくつ分になっているかを数えさせ分子に気付きやすくする。 3 料理を確認し、まとめをする。 4 種類の料理を確認した後、日常生活の中でも分数を意識して過ごし、5年生でも楽しく分数を学習をしていくことを伝えまとめとする。
評価	・分数の料理準備しているか。 ・数直線カードの分数が合っているか。 ・仮分数と帯分数の関係が分っているか。

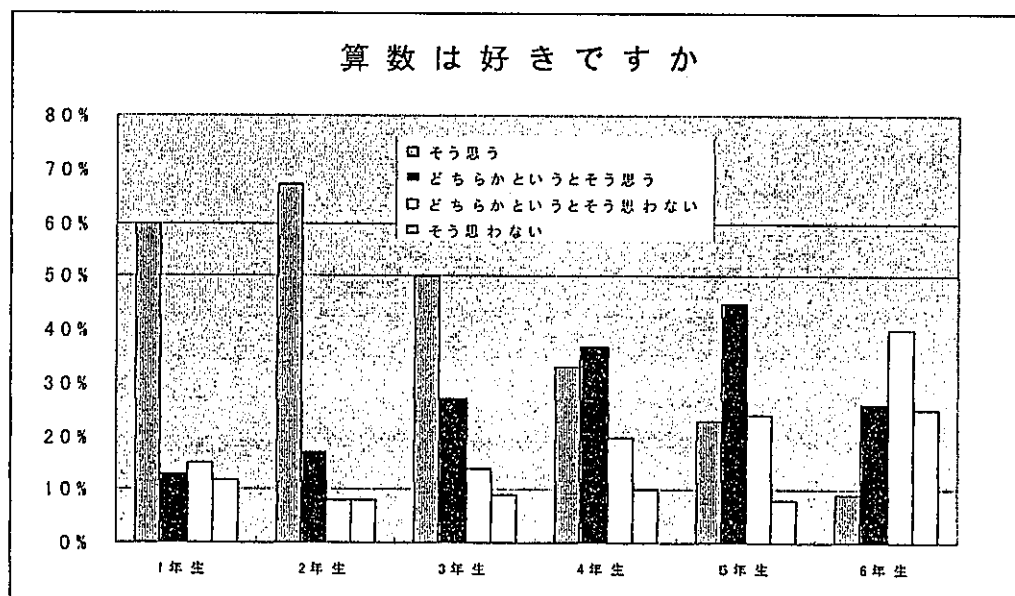
分数ゲームコース(担任)

目標	・分数に関心をもち、楽しみながら分数ゲームをしようとする。 ・分数を数直線に見つけたり、仮分数と帯分数との関係を説明できる。
準備物	分数記入カード、数直線カード、ポイントカード
学習活動	指導上の留意点 1 分数ゲーム大会をすることを伝え、めあてを確認する。 めあて 仮分数・帯分数と仲良くなろう。 対戦相手は、分数のよみ誤りがない様に隣に座る。 2 (1) 「数直線指差しゲーム」をする。 (ルール) ・出題された分数を数直線に見つけて早く指差しした者に5分の1ポイントが与えられる。 ・ポイントカードに記入し、ポイントの多い者の勝ちとする。 (数直線カード) (得点カード)   ・仮分数・帯分数・真分数と真分数を合わせた分数など10問出題する。得点の多かった人を確認する。この時、どの様に考えることで、仮分数の場合は分子に着目すること、帯分数の場合は整数部分に着目するとよいことを明らかにする。 (2) 「どっちの分数が小さいか」をする。 (ルール) ① 分母を5とする仮分数と帯分数を5枚ずつ書く。(3までの分数) ② 分数を書いた10枚のカードをよくきった後、5枚ずつ配る。 ③ タイミングを合わせて1枚ずつ出し、小さい分数に早くタッチし、小さい理由が言えたら5分の1ポイントが与えられる。 ④ 理由が言えない場合は、相手のチャンスタイムとなり理由が言えた場合に5分の1ポイントが与えられる。 ⑤ 同時タッチはジャンケンの勝者に答えるチャンスが与えられる。分数の大きさが同じ場合は2枚をタッチした者に5分の1ポイントが与えられる。 ⑥ ポイントカードに記入し、ポイントの多い者の勝ちとする。 ・仮分数と帯分数との関係を明らかにするために、理由を説明するよう伝える。 ・理由が十分に伝えられない児童には「数直線指差しゲーム」で使った数直線を利用してよいことを助言する。 ・時間があれば、対戦相手を換えながらゲームを続ける。 3 得点を集計する。 「数直線指差しゲーム」と「どっちの分数が小さいか」の得点の合計がいくつになるか考えさせる。 ・単位分数の何個分になっているかを考えるとよいことを明らかにする。 4 まとめをする。 分数と仲良くなって5年生でも楽しく分数を学習をしていくことを伝えまとめとする。
評価	・早く分数を見つけたか。 ・分数を合わせたか。 ・早く小さい分数を見つけたか。 ・仮分数と帯分数の関係を説明できたか。

3学期はじめに児童へのアンケートを行い、算数についての意識調査を行った。その結果を表とグラフに表した。

(あなたは算数が好きですか。)

	・そう思う ・どちらかというと思う	・どちらかというと思わない ・そう思わない
1年生	129人(73%)	48人(27%)
2年生	145人(84%)	28人(16%)
3年生	134人(77%)	39人(23%)
4年生	119人(70%)	51人(30%)
5年生	110人(68%)	52人(32%)
6年生	54人(35%)	100人(65%)
学校全体	691人(68%)	318人(32%)
1学期末	53%	47%



1学期末の、同様な調査では「算数が好き」「どちらかという好き」と答えた児童が約53%ぐらいだったが、今回は約68%ぐらいに上昇し、研究の成果を感じることができた。

しかし、グラフからもわかるように、算数嫌いの児童の比率は、学年が上がるごとに上昇している。これは、教材が難しくなっていくことも、その原因の1つとして考えられる。高学年の子をいかに算数好きにしていけばいいのか、今後の課題である。

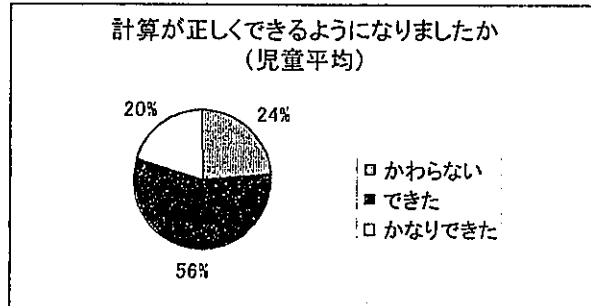
児童アンケート・保護者アンケートの結果から

本校では、1月下旬に、2年生以上の児童、保護者全員を対象に算数についてのアンケートを実施し、本年度の取り組みがどのように効果を上げたのか探った。

(児童回答者 約900人 保護者回答者 約700人)

1 「計算が正しくできるようになりましたか。」

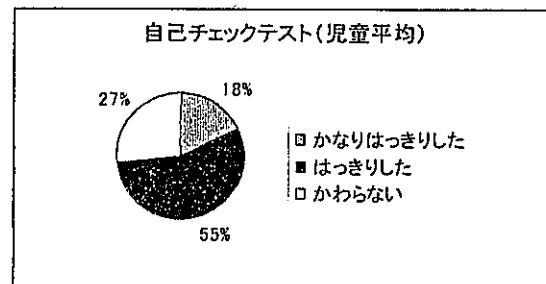
	かなりできた	できた	かわらない
2年生	33.33%	52.38%	14.29%
3年生	32.12%	56.36%	11.52%
4年生	15.19%	69.62%	15.19%
5年生	6.57%	64.96%	28.47%
6年生	5.52%	38.62%	55.86%
平均	20.48%	55.73%	23.79%



ここでも、できるようになったという児童が平均で76%に達しており、計算力が向上したことが伺える。しかし高学年になるほど、「かわらない」という児童の比率がぐっと増えてきている。ショート的时间などを使って、下学年での計算問題の復習を行い少しでも計算に自信がつくように工夫をしていきたい。

2 「自己チェックテストをして自分のわからないところがはっきりしましたか？」

	かなりはっきりした	はっきりした	かわらない
2年生	30.18%	53.25%	16.57%
3年生	17.96%	55.69%	26.35%
4年生	14.91%	59.01%	26.09%
5年生	16.89%	62.16%	20.95%
6年生	6.29%	48.95%	44.76%
平均	17.64%	55.84%	26.52%



自己チェックテストでも70%以上の児童が自分のわからないところがはっきりしたと答えており、かなり有効に機能していると考えられる。自己チェックテストの内容を吟味し、ふさわしい内容とタイミングを探っていきたい。

3 「算数の授業はわかりやすかったですか？」

	かなりわかりやすい	わかりやすい	かわらない
2年生	28.40%	53.85%	17.75%
3年生	35.76%	53.94%	10.30%
4年生	21.38%	60.38%	18.24%
5年生	12.75%	61.74%	25.50%
6年生	2.82%	20.42%	76.76%
平均	20.92%	50.64%	28.44%

71%

4年生，少人数指導での「わり算の筆算」の比較

3年生と同じように、全国平均値8割程度のテストを用い、昨年度と本年度の表現処理の結果を比較してみた。その結果は以下に示すとおりである。

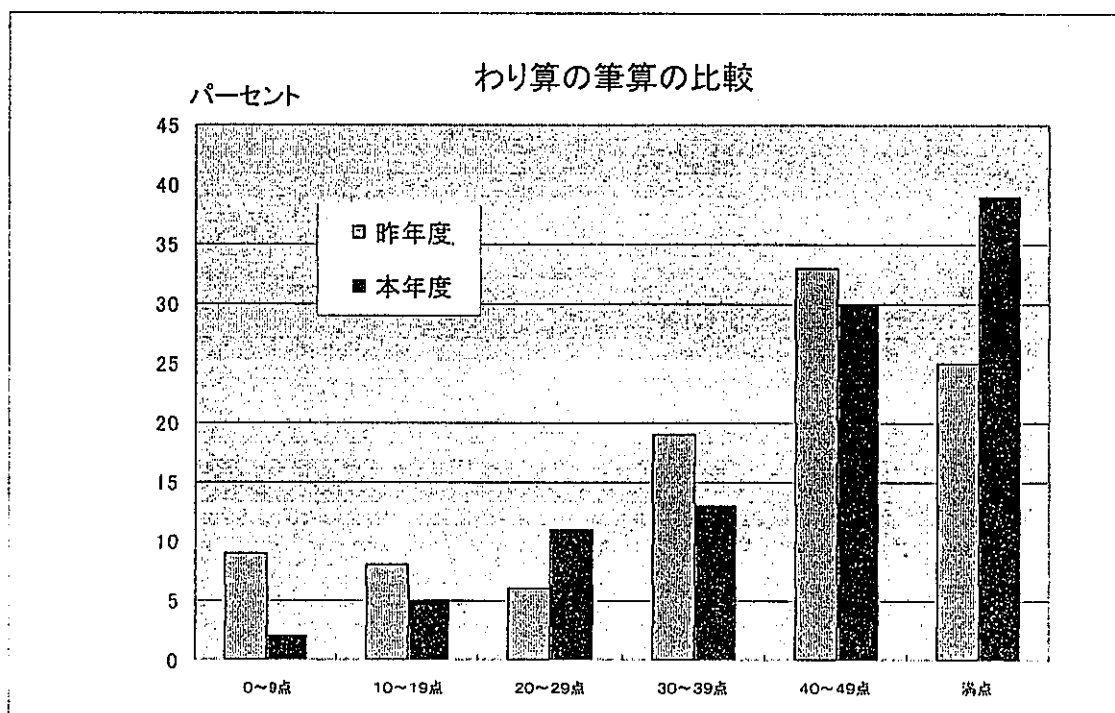
① 平均点、標準偏差の比較

50点満点		
	平均点	標準偏差
昨 年 度	35.67	16.04
本 年 度	39.83	13.23

2クラスの得点状況

全クラスの得点状況

②得点の分布を、その得点範囲内の児童の割合を、パーセント表示で表すと、下のよう
なグラフになる。



③考察

3年生と同じく、問題が昨年度と同じものではないし、また児童の実態も異なるため、単純に比較することは難しいが、次のような傾向が読みとれる。

- ・上位の子の割合が増えている。

40～50点の児童 昨年度 59%

本年度 69%

- ・下位の子の割合が少なくなっている。

0～19点の児童 昨年度 17%

本年度 7 %

- ・平均点が伸び、散らばり（標準偏差）が多少小さくなっている。

すなわち、昨年度行った単純２分割少人数指導に比べ、本年度の課題別少人数指導の成果が見られはじめている。そこで来年度も引き続き課題別少人数指導を推進していき、さらに成果を検証していきたい。

H14.7 調査 保護者

1. T・T (ティームティーチング2人制)、少人数指導、課題別授業、教科担任制についてご存知ですか。ご存知でしたら○をおつけ下さい。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
T・T	54	51	61	60	62	82
少人数	38	55	60	74	91	59
課題別	22	26	22	27	32	22
教科担任	51	60	65	63	78	61

44.8%
45.7%
18.3%
45.8%

2. 本年度、T・Tや少人数指導、課題別授業また、教科担任制などの体制をとっていますが、これについてどうお考えですか。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
① よいと思う	85	79	93	86	85	93
② 必要ない	1	2	0	2	0	2
③ わからない	8	17	6	8	14	3
④ その他	1	1	2	1	2	1

88.0%
1.2%
9.5%

3. お子さまの算数に対する意欲を向上させるためのご意見・ご要望・アイデアがありましたら、お書き下さい。

(意見)

- ・ 算数は、「できる」「できない」がはっきりと分かる教科なので、親としても子どもの理解の様子が、わかりやすいです。生活の中で少しでも計算できたり、数が数えられたりしたら「すごい」と大げさにほめてやり、「できる」という自信を持たせることが、算数好きになる一歩だと思います。
- ・ 兄弟共に算数が好きなので、教科書やドリルでは物足りないようです。算数の苦手な子どもさんのフォローばかりが多いようなので、分かる子のフォローもして欲しい。
- ・ 数の友達作りのプリントなど、ていねいな指導でいいとおもいます。
- ・ 姉の時にはなかった「ともだちゲーム」は子どもも楽しく意欲的に取り組んでいるので良い方法だと思います。

(1年保護者より)

(意見)

- ・ 理解に時間がかかる子と、すぐに分かる子がいると思うので、分からない子に個別に指導をして欲しいです。
- ・ 繰り返すことが身に付くと思うので、同じことでも繰り返す学習をして欲しい。
- ・ 週末にもっと宿題を出して欲しい。塾などで忙しいかもという配慮は不必要です。土曜日に、親子でがんばります。基本を身につけないとずっと算数が嫌いになりそうです。
- ・ グループ対抗で問題を解き、できたグループからすぐろくのように進んでゴールに早くいくことを競う。問題は、全部正解するまで、どこが違うか教えない。グループで教えあって問題を解いていく。昔塾でしたゲームです。
- ・ 毎日、宿題を出して欲しい。自分から進んで勉強するような動機付け、本読みカードのようなものがあればするのではないかと思います。

(否定)

- ・ T・Tや少人数の指導はよいと思うが、課題別・教科担任制までは必要ないと思います。

(2年保護者より)

(意見)

- ・ 古代の数学者（アルキメデスなど）の話に触れて算数のおもしろさ楽しさ、奥深さを知らせていくことが意欲につながると思う。
- ・ 本人は算数が好きなので、伸ばしてやりたいです。算数嫌いなお子さんへのフォローをよく聞きますが、得意な子どものフォローもお願いしたいです。
- ・ 数値・容量・単位などの指導で図式的（まんが図）表現を取り入れて興味を持たせては？
- ・ 教室内商店などでゲーム感覚で楽しんで計算に取り組ませてはどうですか。
- ・ 授業の進み方が速いので、そのときは分かっているでも1～2ヶ月後に聞くとすぐに答えられません。家庭でも繰り返し学習させなければと思います。
- ・ 計算問題などを少しずつでも宿題に出して欲しい。
- ・ 計算100問の宿題が出たとき、子どもは見ただけでうんざりしてしまい、途中で眠ってしまいました。問題の数が多いと思います。途中でクイズなど入れたら眠らないでできるかな。

(意見)

- ・ 小テストを短時間で週に何回かして理解を図っては？
- ・ 算数指導コース希望調査などの内容を具体的、詳細に教えて欲しい。教科担任制など興味深いが、指導方針や学校の意向などもっと情報を提供して欲しい。

(3年保護者)

(肯定)

- ・ 少人数指導は子どもに刺激になっていてよい。少人数指導の教室移動で休み時間が取られないようにできるとよい。少人数指導や教科担任の先生の授業参観もあるといい。

- ・ ショート6でプリントができたら帰るのではなく、できたらワンランク上の応用問題をする事で、解けた喜びや自信がつくと思う。
- ・ ランク別のプリントをして合格したら上のランクのプリントをし、分からなければ同じ問題を何回もする。
- ・ 基本的な計算を毎日朝自習でさせることにより計算力をつけたり、テストでできていないところをチェックし放課後希望者だけでもポイント学習したりする。
- ・ 習熟度の程度にかかわらず、楽しく自分だけでもできるような図形パズルなどを取り入れて欲しい。
- ・ 今年のような体制をとるまでの経緯やその主旨がよく分からないので、事前に説明が欲しかったです。

(4年保護者)

✕

- ・ 課題別授業は意欲的にはなれると思うが、得意、不得意を持たせてしまう可能性があることが気になります。
- ・ コンピューターを使ったクイズやゲームなどの教材を使うとよいのでは？
- ・ 実生活に関係のあるような問題にしたらどうか。
- ・ 大きな単位、億以上は覚える必要はないのでは？

(5年保護者)

(肯定)

- ・ 工・工や課題別授業は算数の苦手な我が子にはよいと思います。分からないところを繰り返し教えてもらい前より理解できているようです。

(意見)

- ・ 今までのやり方でいくよりは、分からないことが分かるように一人ひとりにおおじて教えてもらえることはよいことだと思います。ただ、我が子の「学力」がどう変わってきているのか見えません。
- ・ 朝自習の時間に、学年に合った計算問題を毎日させ、計算力を付ける。計算することで規則性がわかり、数が複雑になってもあきらめなくなると思う。また、問題を読んでそれを図にする練習があるといい。
- ・ 分からないことを「分からない」と言える場であって欲しい。
- ・ 宿題を多くして欲しい。自主学習ではますますできる子とできない子の差がついていくような気がする。

(6年保護者)

H15.1 調査

(保護者の感想)

2年生保護者

- ・少人数だと授業中が静かで、発言の機会が増える。楽しくなった。
- ・意欲的になった。競争心が芽生えた。目がよく届く。
- ・少人数だと分からないことが聞きやすい。落ち着いてできるようになった。
- ・自分のペースで理解できる。反復練習もしてほしい。
- ・じっくり教えていただいてありがたかった。きめ細やかな指導をして頂くことができた。
- ？ ・先生からおすすめのコースを教えて頂けないか。
- ・1人1人のペースに合わせて基礎がきっちり身につけることができる。
- ・理解の速さに応じて進むことはよいと思う。
- ・担任以外の先生と学ぶことは子どもにとって新鮮である。
- ・子ども達に考えてコースを選択させたことは自主性をつけていく上でとてもよいとだと思ふ。
- ？ ・簡単な授業の内容の報告をして頂けると助かる
- ？ ・自己チェックテストは低学年の子には意味がない。先生が判断するようにしてほしい
- ？ ・あまり差が出ない授業のような気がするが

3年生保護者

- ・自分でどの程度できたかよく分かる。
- ・最初はとまどいがあったが、今は慣れてきた。
- ・少人数指導の方がありがたい。
- ・新鮮でよい。違った角度から問題を解くのもよい。
- ？ ・自分でどのコースを選ぶか迷いがあった。結局簡単なコースを選択した。
- ・興味深く学ぶことは大変いいことだ。

※

4年生保護者

- ・自分で選択して勉強するのは楽しい。
- ？ ・教える先生によって、教え方が違い、わかりにくいことがある。
- ・子どもも質問ができ、本当の意味でのわかった学習ができる。
- ・クラス全体よりわかりやすい。
- ・きめ細やかな指導がしていただける。
- ・変化があってよい。丁寧に指導してくれてよかった。
- ・少人数のおかげで算数が楽しくなった。よく理解できた。引き続きやってほしい。
- ・課題別で子どもがどれだけ理解しやすくなったか、わかりにくい。
- ？ ・チェックテストでクラスを分けるのはどうかと思う。
- ・自己チェックテストには問題がある。
- ？ ・自己判定したコースと実力が違いすぎる場合、教師はアドバイスしてくれるのか。

5年生保護者

- ・4年生の時の少人数指導の方がよかった。
- ・本人がどれくらい理解できているかわかるようなチェックテストをしてほしい。
- ・効果があってよい。
- ・理解度がわかるのでしてほしい。できないところを重点的にしてほしい。
- ・参観できるとよいのだが。

6年生保護者

- ・自分でチェックできてよい。いろいろなパターンで学習できてよい
- ・重要なポイントを聞き逃さずにできるのでよい。
- ・質問しやすい雰囲気にしてほしい。
- ・個人によって差ができているので、少人数制はしてもよい
- ・自分の実力がわかっていて、課題別において苦手な項目などが理解できるようになった。
- ・一人一人が授業に参加できていた。
- ・理解度に合わせて学習指導してもらえてよいと思う。
- ・きめ細かい指導ができ、また、自分で課題を自分で決めることは、やる気が育っていい。
- ？ ・二人の先生の声が混ざってわかりにくいこともある。

参観授業後の子ども・保護者の意見(5年生 H15. 6)

課題別授業(これからも算数課題別があった方がいいですか。)

	子ども	保護者
はい	56. 4%	56. 9%
どちらともいえない	30. 1%	37. 3%
いいえ	13. 5%	5. 8%

「ショート6」(これからもショート6があった方がいいですか。)

	子ども	保護者
はい	32. 5%	80. 9%
どちらともいえない	32. 5%	16. 4%
いいえ	35. 0%	3. 6%

教科担任制について(6年生になっても教科担任制が良いですか。)

	子ども	保護者
はい	56. 5%	64. 8%
どちらともいえない	33. 1%	33. 1%
いいえ	10. 4%	1. 9%

(3) 課題別授業への配慮

- ・コースの人数配分を固定せずにグループ分けを行う。
- ・本人の興味関心、到達度差に合ったコース選定。
- ・課題のネーミングについては、意欲をもてるように工夫している。
- ・学年を解体しての授業もあり座席表を使用して児童の実態把握に努める。
- ・授業のあとに「振り返りカード」に記入させ、個々の充実感を確認するようにしている。

ア 45分授業について

- ・コース変更可能。必要に応じて、コース選択は保護者とも相談の上決めさせる。

イ ショート6について

- ・コースをかわれるようにしているが、前の時間の答え合わせをしてから新しいコースに替わることになる。短時間のため困難さもある。
- ・コース数を増やす、例えば5年では5クラス+2(1年)と2コース多くすることや、コース変更可能とすることにより、お互いがどのコース行っているのか分かりにくいように配慮している。
- ・一番下のクラス児童のために使用する教室は、児童の出入りの少ない特別教室としている。

5 推進上の課題

- (1)大規模校において、課題別授業を実施していく場合、教科担任制、学年解体での授業等による時間割調整の困難さを考えると、クラス単位で実施できる少人数指導の充実の方向はありがたい。
- (2)子どもが興味関心や到達度差に基づき、適切なコース選定ができるよう選定のあり方について深めていく必要がある。
- (3)子ども一人ひとりが基礎・基本を身に付けるために「学びの道筋」「自己チェック」「ショート6」「教科担任制」「少人数指導」等の取り組みをしてきた。今後も深めていきたい。